

講義コード	11C0110802	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員		開講期	
科目名	ジェンダーとは何かB					千葉 慶		第2期	
履修前条件				備考					
授業の目的	「ジェンダー」というものは、非常にわかりにくい。それは見えないからである。そこで、本講義では、ヴィジュアル資料を用いることで、見えないはずのジェンダーがいかに描かれているかを分析することで、可視的かつ明確にジェンダーを捕捉する術を提示する。また、ジェンダー分析による表象読解の方法論の提示によって、受講者がジェンダー分析の方法論に親しみ、ジェンダー規範に冷静に向き合うための手段を身に付けさせる。								
到達目標	受講者が自分の身近に存在しているジェンダー規範の所在に自覚的に気づき、また、把握することが可能になること。現状では「なんとなく」やりすごしてしまい認知できていないジェンダーに関わる問題について、自分の言葉で少なくとも説明できるようになること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、配布されたプリントを再読し、次回までに理解できた点、理解できなかった点を明確にして講義に臨むこと。演習形式の講義の回においては、質問事項を指示するので、翌週の講義中にレポートで提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 イントロ ジェンダーとは何か、なぜジェンダー分析を学ぶのか</p> <p>【第2回】 崖の上のポニョを見る まずはジェンダー分析を体験してみよう</p> <p>【第3回】 崖の上のポニョを見る（続き）+分析</p> <p>【第4回】 崖の上のポニョ分析 〈青春〉の機能不全という問題</p> <p>【第5回】 〈青春〉とジェンダー その概念と歴史 イントロ</p> <p>【第6回】 制度としての〈青春〉 戦後日本の場合1 戦後復興期 『ハワイ・マレー沖海戦』から『青い山脈』へ 解放としての〈青春〉</p> <p>【第7回】 〈青春〉という制度 戦後日本の場合2 戦後復興期 『リボンの騎士』を読む</p> <p>【第8回】 〈青春〉という制度 戦後日本の場合3 高度成長期 裕次郎映画を読む 理念に対する懐疑と飼いならし</p> <p>【第9回】 〈青春〉という制度 戦後日本の場合4 高度成長期 『ドラえもん』を読む「普通の家族」におけるジェンダー</p> <p>【第10回】 〈青春〉という制度 戦後日本の場合5 移行期 『青春の殺人者』『逆噴射家族』を読む 理念の経年劣化</p> <p>【第11回】 〈青春〉という制度 戦後日本の場合6 移行期 ラブコメ～岡崎京子を読む ロマンティックラブの相対化</p> <p>【第12回】 〈青春〉という制度 戦後日本の場合7 構造転換期 『イグアナの娘』『PINK』を読む 新たな女性像に向けて</p> <p>【第13回】 〈青春〉という制度 戦後日本の場合8 構造転換期 クィア理論と『大阪ハムレット』新たな家族の形へ</p> <p>【第14回】 『借りぐらしのアリエッティ』を読む 改めてバックラッシュ的ジェンダー観に向き合うために</p> <p>【第15回】 予備日 レポート試験</p> <p>以上はあくまでも予定であって、講義の準備状況や、実際の進捗状況によって変更する場合がある。</p>								
成績評価の方法	平常点（出席点）60%、レポート40%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『図解雑学ジェンダー』加藤秀一、石田仁、海老原暁子（ナツメ社）2005								
教員からのお知らせ	受講にあたっては、私語を慎むこと。注意しても私語が収まらない場合は退室を命じる。講義に際しては、コメントペーパーを配布する。講義の理解度や質問を受け付けるためのペーパーである。決して、講義を聞かないでも書けるような三行コメントや、代筆の類をしないように。不正が発覚した者には受講の停止を命じる。真摯な態度での受講を望む。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
その他									